

第4期川崎区区民会議みんなのまちづくり部会進捗状況報告

<p>審議テーマ</p>	<p>これまでに出了された意見</p>
<p>1 地域で身近な防災力（歴史・環境から学ぶ）</p> <p>(1) 災害時に安全に避難できるようにするため、川崎区の歴史や環境の視点から防災を考える必要がある。</p>	<p>ア 臨海部の災害への対策を知る必要がある (ア)川崎区民にとって心配なのが臨海工業地帯だと思う。災害時の火災や有毒ガス、原子炉等が怖い。方が一震災が起きた時、川崎市はどういう対策をしているのか知りたい。</p> <p>イ 防災拠点の仕組みを区民に広く知ってもらう必要がある (ア)東扇島が防災拠点になっているが、海底トンネルが水没すると、救援物資の拠点として機能を果たせなくなるのではないかと。 (イ)東扇島にヘリコプターで物資を降ろし、船で持ってくる訓練を実際に行っていた。そういった情報が区民の皆さんにまだ伝わっていない。</p> <p>ウ 誰でも見やすいハザードマップを作成する必要がある (ア)ハザードマップがあるが、色分けが大変わかりづらい。対照的な色で書いてくれないとわかりづらい。</p> <p>エ 誰でもすぐに現在位置と避難場所がわかる仕組みが必要である (ア)外国人とか、最近川崎市に移住してきた人は、避難所になっている学校名だけ出しても分からない。例えば、町内会の掲示板に地図を貼り、現在位置を示す必要がある。 (イ)避難時にどこに何があるのかわかる仕組みが必要である。今は、スマホとかパソコンを個人が1台持つ時代なので、ここを見れば、どこに行けばわかるような情報提供もしてもらいたい。</p> <p>オ 区民会議では、「自助」「共助」による対応方法を議論する必要がある (ア)我々が、議論しなくてはならないのは、「自助」「共助」の方だと思う。たとえば自主防災組織のDVDを各町会に配って、皆の目に触れるようにする必要がある。</p> <p>カ 学校や地域との連携を強くする必要がある (ア)学校の校門と屋上が1つの鍵で開くところがあり、また町会の役員さんが鍵を持っていて何かあった時に開けられるようになっている。地域の人が鍵を管理しないと災害が起きた時に間に合わない。</p>
<p>2 コミュニティバス導入の促進（観光と福祉の向上）</p> <p>(1) 誰もが区内を安全に安心して移動できるようにするため、福祉や観光の視点を入れたコミュニティバスの導入方法を検討する必要がある。</p>	<p>ア コミュニティバスの導入について (ア)川崎区は、宮前区、麻生区と違い土地が平坦で交通機関が充実している。より低コストで実現の可能性が高い交通手段について、再度検討していく。 (イ)高齢者等の交通弱者への支援だけでなく、観光や商業の振興等の点も入れて導入を検討していく。</p>

<p>今後の検討事項</p>
<p>① 海抜表示について ア 地域で海抜がわかるように海抜を表示する具体的な方法を検討していく。</p> <p>② 避難場所の位置表示について ア 避難場所が直感的にわかるような案内の具体的な方法を検討していく。</p> <p>③ 津波の時の避難場所について ア 避難場所として有効なマンションの開放協力等について、検討していく。</p> <p>④ 沿岸部の樹木について ア 災害を拡大させないために有効と考えられる樹木の植栽について、検討していく。</p>
<p>① コミュニティバスの導入について ア 市役所の交通政策に関する部署へのヒアリング等を実施していく。</p>